

銚子ジオパーク市民の会 ニュース

潮風ヶ浦 (銚子市)

第 106 号

2020年4月11日 発行

発行責任者 工藤 忠男

編集責任者 藤身 隆雄

TEL 0479 24 2225

<http://choshi-geopark.com/>

台湾野柳地質公園訪問記

安藤 清

2月16日から18日

豆腐岩、海蝕洞など、奇

で、銚子ジオパーク推進

協議会の企画による台湾

への市民訪問ツアーが行

われました。ジオ関係で

は、小川文化財・ジオパ

ーク室長及び本会会員4

名が参加しました。ここ

では野柳地質公園(以下

「野柳GP」への訪問に

ついて報告します。

野柳GPは砂岩質の地

質でできており、岩質の

微妙な違いや営力の違い

によって起こる差別侵食

の結果、様々な奇岩があ

らわれています。「女王の

頭(Queen's Head)とよ

ばれる岩はポスターにも

使われ、現在の公園のシ

ンボルとなっています。

パンフレットには、

「・・・一千万年に及ぶ旺

盛な地殻運動、海蝕、風

蝕の影響を受けて、キノ

コ岩、シヨウガ岩、壺穴、

豆腐岩、海蝕洞など、奇

抜な海岸景観が展開して

います。・・・岬は、・・・北

部台湾を代表する景勝

地：・・・まさに行楽と教育

を兼ねた格好の観光スポ

ットです!とあります。

実のところ公園入口か

ら岬の先端までは約1km

で、銚子に比べてもとて

もコンパクトです。従来

景勝地として観光客を集

めていましたが、今や年

間300万人が訪れる観光

地になっているそう

です。

ジオパーク活動には、

その「地域独特のジオ

という資源の存在が前提

ですが、それを「いかに

見せるか」が活動の持続

可能性を確保するために

重要だといわれています。

その意味で、野柳GP



同行していた台湾地質公園学会で公園運営の企画等にもたずさわる荘さんと話す機会がありました。「女王の頭」はやがて姿を変える。それをどう考えるかという質問が話の発端でした。侵食されやすい砂岩質からなる景観の保全と、それを活用している野柳GPの将来についてです。やがて「女王の頭」はなくなるに違いないが、それを人為的に固定化することは保全ではない。企業としての野柳GPは2018年に銚子と交流促進協定を結びました。台湾はGNには未加盟ですが、国際的にも活発な活動を展開しています。公園は台湾政府観光局の管轄であり台湾地質公園学会が学術的にサポートしています。運営は新空間国際股份有限公司という企業が行っています。見学の案内をしてくれた女性は、日常的には公園の管理運営に関する事務的な業務を担当している社員です。約60名いる社員のうち地学系の専門家はほとんどおらず、またガイドはボランティアに委託しています。主に定年退職後の世代が担っているという点で、今回の訪問には会社をあげて歓迎して



は会社をあげて歓迎していただき、銚子や日本に向けられる熱い思いを実感しました。 有限公司の楊社長は、2017年に初めて来銚し、その翌年に協定締結のために再来しています。当日夜の懇親会は会社主催で社長ほか会社の幹部、台湾交通部の職員、台湾地質公園学会の関係者を迎え大いに盛り上がりました。ジオパークを通して生まれる交流の楽しさがありがたさをあらためて実感した次第です。